

4. 授業科目の概要

特別支援教育特別専攻科(一種免コース)

授業科目	特別支援教育原論	英訳名	The Principles of Special Needs Education		
担当教員	荒川 智	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	火	講時	4
授業形態と概要	日本の特別支援教育制度を定めている法令や制度の具体的な状況と国や自治体の政策、外国と日本の障害児教育の歴史、近年の特別ニーズ教育やインクルーシブ教育に関する国際的動向について講義する。				
到達目標	日本の特別支援教育に関する法令と政策、障害児教育の成立と展開に大きな役割を果たした人物と重要事項、および国内外の特別ニーズ教育やインクルーシブ教育の基本的動向について、基本的知識を習得するとともに、特別支援教育の今後の課題について考察できるようになる。				
授業計画	(1) オリエンテーション、(2) 特別支援教育の制度1〔学校教育法・関連法令(その1)〕、(3) 特別支援教育の制度2〔学校教育法・関連法令(その2)〕、(4) 特別支援教育の制度3〔政策と統計の概観(その1)〕、(5) 特別支援教育の制度4〔政策と統計の概観(その2)〕、(6) 障害児教育の歴史1〔障害児教育の創始(その1)〕、(7) 障害児教育の歴史2〔障害児教育の創始(その2)〕、(8) 障害児教育の歴史3〔特別学校・学級制度の整備〕、(9) 障害児教育の歴史4〔障害児教育の展開〕、(10) 障害児教育の歴史5〔戦後の障害児教育〕、(11) 特別ニーズ教育の国際動向1〔諸外国の政策・国連の施策〕、(12) 特別ニーズ教育の国際動向2〔障害者権利条約〕、(13) 特別ニーズ教育の国際動向3〔インクルーシブ教育〕、(14) 特別支援教育改革の方向、(15) 特別支援教育改革の方向				
成績評価基準	A: 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B: 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C: 授業内容をほぼ理解した。 D: 学習した内容を理解できない。				
成績評価の方法	定期試験(100%)				
教科書・参考書	未定、授業中に指示する。				

授業科目	障害児教育演習 I	英訳名	Seminar of Education for Children with Disabilities		
担当教員	荒川 智	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	水	講時	1
授業形態と概要	障害のある子どもに関する教育的研について、基本文献・資料を読解を通し、かつ障害児教育学に関わ自分の問題関心にに基づき、修了研究作成につなげる。				
到達目標	修了研究のテーマを確定し、基本文献を読解し、研究内容を組み立てて、修了研究を作成する。				
授業計画	1. ガイダンス、2. 関連先行研究の文献の収集と読解(その1)、3. 関連先行研究の文献の収集と読解(その2)、4. 関連先行研究の文献の収集と読解(その3)、4. 関連先行研究の文献の収集と読解(その4)、5. 関連先行研究の文献の収集と読解(その5)、6. 関連先行研究の文献の収集と読解(その6)、7. 研究計画の立案と発表(その1)、8. 研究計画の立案と発表(その2)、9. 研究計画の立案と発表(その3)、8. 研究計画の立案と発表(その4)、9. 論文執筆経過報告(その1)、10. 論文執筆経過報告(その2)、11. 論文執筆経過報告(その3)、12. 論文執筆経過報告(その4)、13. 論文執筆経過報告(その5)、14. 論文執筆経過報告(その6)、15. まとめ				
成績評価基準	A: 文献読解、計画、執筆内容すべてにおいて優れている。 B: 文献読解、計画、執筆内容において水準に達している。 C: 文献読解、計画、執筆内容においてさらに努力の余地がある。 D: 修了研究の水準に達していない				
成績評価の方法	授業中のレポートと修了研究論文。				
教科書・参考書	適宜指示する。				

授業科目	障害児教育演習Ⅱ	英訳名	Seminar on Special Needs Education Ⅱ		
担当教員	新井英靖		単位数	2	
開講時期	後期	曜日	月	講時	3
授業形態と概要	自分の問題関心にもとづき修了研究を進めるにあたり、修了研究のまとめ方や論文の構成に関する指導を行う。				
到達目標	修了研究の関心を論文としてまとめていく中で、障害児教育に関連する新しい知見を深めることができる。				
授業計画	1. ガイダンス、2. 修了研究の書き方 3. 修了研究に関する専門的な文献収集の方法、4. 文献購読の方法、5. 文献購読（その1）、6. 文献購読（その2）、7. 文献購読（その3）、8. 文献購読（その4）、9. 文献購読（その5）、10. 文献購読（その6）、11. 自らの研究テーマのまとめ（その1）、12. 自らの研究テーマのまとめ（その2）、13. 修了研究の構想（その1）、14. 修了研究の構想（その2）、15. まとめ				
成績評価基準	A： 文献読解、計画、執筆内容すべてにおいて優れている。 B： 文献読解、計画、執筆内容において水準に達している。 C： 文献読解、計画、執筆内容においてさらに努力の余地がある。 D： 修了研究の水準に達していない				
成績評価の方法	授業時のレポートで評価する。				
教科書・参考書	適宜指示する。				

授業科目	特別支援教育基礎演習	英訳名	Bssic Seminar of Special Needs Education		
担当教員	新井 英靖		単位数	2	
開講時期	前期	曜日	月	講時	4
授業形態と概要	障害のある子どもに関する文献を読みし、自分の問題関心を明確化するとともに、修了研究における自らのテーマを確定する。				
到達目標	障害児教育に関する基本文献の読解方法、および後期における自らの研究内容を明確にする。				
授業計画	1. ガイダンス、2. 障害児教育の研究領域の解説 3. 障害児教育における文献収集の方法、4. 図書館の活用の方法、5. 文献購読（その1）、6. 文献購読（その2）、7. 文献購読（その3）、8. 文献購読（その4）、9. 文献購読（その5）、10. 文献購読（その6）、11. 自らの研究テーマの紹介（その1）、12. 自らの研究テーマの紹介（その2）、13. 研究計画の立案（その1）、14. 研究計画の立案（その2）、15. まとめ				
成績評価基準	A： 文献読解、計画、執筆内容すべてにおいて優れている。 B： 文献読解、計画、執筆内容において水準に達している。 C： 文献読解、計画、執筆内容においてさらに努力の余地がある。 D： 修了研究の水準に達していない				
成績評価の方法	授業中に割り当てられた課題に対するレポート。				
教科書・参考書	適宜指示する。				

授業科目	障害者福祉論	英訳名	Welfare in Education for Children with Disabilities		
担当教員	未定			単位数	2
開講時期	休講	曜日		講時	
授業形態 と概要	障害のある人が自己現実を因りつつ社会生活を営むための工夫や支援のあり方を生活の場面場面で生じる問題に則して講述するとともに、親やきょうだいの生活や家族を支える方法に付いても触れる。具体的事例についてはVTRで紹介する。				
到達目標	社会生活における障害のある人のニーズや問題から制度のあり方を考えることで、新しい制度を創造するための基礎的な見方を養う。				
授業計画	(1) 個人と家族、生活を取り巻く社会構造・状況の変化 (ADLからQOLへ/バリアからバリアフリー、ユニバーサルデザインへ/経済的自立から自立決定による自立へ/思潮のなかで考えるべきこと) (2) 本人の生活と家族の生活 (家族支援と本人支援/本人の自己実現と家族の自己現実) (3) 社会生活への参加とそれを支える仕組みの現状と問題 (就労/住居/衣服とおしゃれ/金銭管理/情報/趣味と娯楽/性と結婚/生活でのトラブル) (4) 歴史の中の障害者				
成績評価 基準	A : 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C : 授業内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	授業中に課すショートレポート (複数)				
教科書・ 参考書	特に指定しない。講義資料を当日配布する。 参考書：小澤温編『よくわかる障害者福祉論』ミネルヴァ書房				

授業科目	知的障害児の心理	英訳名	Psychology in Children with Intellectual Children		
担当教員	松村 多美恵			単位数	2
開講時期	前期	曜日	火	講時	5
授業形態 と概要	知的障害児の定義、原因、およびタイプ等の概念的な事柄について概説し、知的障害児のアクセシビリティの意義やほうほうについて具体的な心理検査を挙げて理解させる。その上で、知的障害児の言語能力および学習能力の特徴について詳説する。				
到達目標	知的障害児の定義、原因および分類といった知的障害児の概念、さらに知的障害児を指導する際のアクセシビリティの方法、知的障害児の学習能力および言語能力の特徴について理解する。				
授業計画	(1) シラバスを用いてガイダンス、知的障害児の概念 (定義、原因)、(2) 知的障害児の概念 (出現率、分類)、(3) 知的障害児のアクセシビリティ (目的、心理検査 (その1)) (4) 知的障害児のアクセシビリティ (心理検査 (その2))、(5) 知的障害児のアクセシビリティ (行動観察 (その1))、(6) 知的障害児のアクセシビリティ (行動観察 (その2))、(7) 言語の発達過程 (その1)、(8) 言語の発達過程 (その2)、(9) ことば獲得にかかわる要因 (その1)、(10) ことば獲得にかかわる要因 (その2)、(11) 知的障害児における言語能力の特徴、(12) ことばの指導 (その1)、(13) ことばの指導 (その2)、(14) 知的障害児の学習能力、(15) 問題行動と行動療法				
成績評価 基準	A : 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C : 授業内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	第16回目に定期試験を実施し、その成績により評価する (100%)				
教科書・ 参考書	教科書//授業者が作成した資料を配付する。参考書/「ことばの障害入門」、西村べん作、大修館書店2200円、「知的障害児の心理学」、梅谷忠男他、田研出版2500円				

授業科目	知的障害児の生理	英訳名	Health Care in Children with Disabilities		
担当教員	勝二 博亮		単位数	2	
開講時期	後期	曜日	月	講時	4
授業形態 と概要	生理学の知識が実際の支援にいかに関わっていくか、講義全体を通して話していく。ダウン症に関しては合併症も多いため、他の知的障害とも絡めながら合併症に関して講義していく。その後、知的障害児に関わる健康問題法に関して、生理学的視点から講義する。				
到達目標	障害によって健康の保持・増進に対する留意点は異なることを理解し、そのような知識が発達支援を考える上で重要であることを認識できる。彼らの健康維持に関わる具体的な支援方法は1つではないため、講義を通して考え方の新たな発見や意識が変わっていくことを望みたい。なお、講義中に感じた疑問などに関しては講義の終わりに記述してもらおうが、自ら感じた疑問は自分で解決できる基礎的能力も身につけさせたい。				
授業計画	(1) オリエンテーション、(2) 知的障害とは、(3) ダウン症の生理学、(4) ダウン症と合併症1 (視覚・聴覚)、(5) ダウン症と合併症2 (心臓疾患・環軸関節脱臼)、(6) 睡眠の生理学、(7) 知的障害と睡眠、(8) 睡眠問題へのアプローチ、(9) 肥満の生理学、(10) 知的障害と肥満、(11) 肥満問題へのアプローチ、(12) てんかんへの配慮、(13) 歯にかかわる問題、(14) 排泄にかかわる問題、(15) まとめ				
成績評価 基準	A : 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C : 授業内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	定期試験 (100%)				
教科書・ 参考書	参考書: 「特別支援児の心理学」梅谷忠勇ら、北大路書房2500円				

授業科目	知的障害児の病理	英訳名	Pathophysiology of Children with Intellectual Disabilities		
担当教員	尾崎 久記		単位数	2	
開講時期	前期	曜日	月	講時	5
授業形態 と概要	知的発達障害、肢体不自由、てんかん、高次脳機能障害などの病理について講じるとともに、関連する視聴覚教材を用い障害についての理解を深める。また、簡単な実験や観察を通じて、人間の体の仕組みや機能についての理解をはかる。				
到達目標	人間の構造と機能を理解した上で、障害発生の原因、仕組み、学齢期における対応の留意点について理解できる。				
授業計画	1. ライフサイクルを障害発生、2. 細胞と遺伝子情報-1、3. 細胞と遺伝子情報-2、4. 染色体異常-1、5. 染色体異常-2、6. 遺伝子異常、7. 胎児期の障害、8. 周生期の障害、9. 出世後の障害、10. 脳と神経の働き-1、11. 脳と神経の働き-2、12. てんかんの病理-1、13. てんかんの病理-2、14. 高次脳機能とその障害-1 (学習障害)、15. 高次脳機能と霜害-2 (注意欠陥・多動性障害)				
成績評価 基準	A : 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C : 授業内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	小テスト: 30% 最終試験70%				
教科書・ 参考書	適宜資料を配布する。				

授業科目	障害児心理演習 I	英訳名	Seminar in Psychology on Children with Disabilities		
担当教員	松村多美恵	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	水	講時	1
授業形態と概要	知的障害児に関する各自のテーマについて心理学的研究方法を習得させ、論文作成に関わる授業を行う。				
到達目標	知的障害児に関する心理学的研究方法について理解し、研究テーマの設定および具体的な研究計画の立案をし、研究を遂行する。				
授業計画	1. オリエンテーション 2. 従来の関係文献の講読による研究目的の明確化(その1) 3. 従来関係文献の講読による研究目的の明確化(その2) 4. 従来関係文献の講読による研究目的の明確化(その3) 5. 従来関係文献の講読による研究目的の明確化(その4) 6. 具体的な研究方法の検討(その1) 7. 具体的な研究方法の検討(その2) 8. 研究計画の立案(その1) 9. 研究計画の立案(その2) 10. 研究の中間報告(その1) 11. 研究の中間報告(その2) 12. 研究の中間報告(その3) 13. 研究の中間報告(その4) 14. 研究の中間報告(その5) 15. 研究の中間報告(その6)				
成績評価基準	A: 研究目的、研究方法を明確化し、研究を自発的に遂行することができた。 B: 研究目的、研究方法を明確化し、研究を自発的に遂行することがある程度できた。 C: 頻繁の指導の下で、研究目的、研究方法を明確化し、研究を遂行することができた。 D: 研究目的、研究方法を明確化できず、研究を遂行することができなかった。				
成績評価の方法	毎回のレポートにより評価する。				
教科書・参考書					

授業科目	障害児心理演習 II	英訳名	Seminar in Psychology on Children with Disabilities II		
担当教員	東條 吉邦	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	火	講時	3
授業形態と概要	主に演習形態で実施し、発達障害(特に自閉症と知的障害)に関する各自のテーマについて心理学的研究方法を習得させ、修了研究論文の作成を指導する。				
到達目標	発達障害に関する研究の技法と最近の知識を理解し、具体的な研究計画を立案し、修了研究を遂行する。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)～(14)発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、知的障害、LD、ADHD等)に関する内外の文献の講読、レポート等による障害児心理学に関する知識・技能を修得するとともに、各自の研究の立案、研究の進捗状況等に関する発表とディスカッション (15)まとめ				
成績評価基準	A: 自ら立案したテーマについて調べたことを発表し、研究の内容を深めることができた。 B: 自ら立案したテーマについて調べたことを発表することができた。 C: 自らテーマを立案できないが、与えられたテーマであれば発表することができた。 D: 自らテーマを立案できず、発表することもできなかった。				
成績評価の方法	レジュメ、発表、議論への参加等から総合的に評価する。				
教科書・参考書	適宜資料を指示する。				

授業科目	障害児生理演習 I	英訳名	Seminar in Physiology of Children with Disabilities		
担当教員	尾崎 久記			単位数	2
開講時期	後期	曜日	水	講時	1
授業形態 と概要	演習：知的障害児や関連する発達障害に関する生理学的文献を購読し、障害の発言や特徴を理解するとともに、そのような児童生徒への教育・療育上の支援に関する研究法を身につける。				
到達目標	障害児に関する生理学的研究手法を身につける。				
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 生理学的研究手法-1 (3) 生理学的研究手法-2 (4) 生理学文献検索-1 (5) 生理学文献検索-2 (6) 生理学文献講読-1 (7) 生理学文献講読-2 (8) 生理学文献講読-3 (9) 生理学文献講読-4 (10) 生理学文献講読-5 (11) 生理学実験実習-1 (12) 生理学実験実習-2 (13) 生理学的研究構成法-1 (14) 生理学的研究構成法-2 (15) まとめ				
成績評価 基準	A： 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C： 授業内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レポート100%				
教科書・ 参考書					

授業科目	障害児生理演習 II	英訳名	Seminar in physiology for children with disabilities II		
担当教員	勝二 博亮			単位数	2
開講時期	後期	曜日	月	講時	2
授業形態 と概要	演習：知的障害に関する各自のテーマについて生理学的研究方法を習得させ、具体的な研究計画の立案を指導する。				
到達目標	各自のテーマに基づいて、科学的思考により修了研究論文を作成することができるようになる				
授業計画	(1) オリエンテーション, (2)-(14)各自テーマに関わる発表とディスカッション, (15)まとめ				
成績評価 基準	A： 自ら立案したテーマについて調べたことを発表し、そのテーマについて内容を深めることができる B： 自ら立案したテーマについて調べたことを発表することができる C： 自らテーマを立案できないが、与えられたテーマであれば発表することができる D： 自らテーマを立案できず、発表することもできない				
成績評価 の方法	レジュメ, 発表, 議論への参加等から総合的に判断する				
教科書・ 参考書	適宜資料を指示する				

授業科目	肢体不自由児の生理	英訳名	Physiology of the Physical Disabilities	
担当教員	岡澤 慎一		単位数	2
開講時期	集中	曜日	講時	
授業形態と概要	肢体不自由を抱える人との関わり合いをもつにあたって、知っておいた方がよいと思われる生理学的知見に関する理解を深める。			
到達目標	肢体不自由を抱える人に関する基本的な生理学知見を説明できる。			
授業計画	1. オリエンテーション／肢体不自由（運動障害）お定義および状態増、2. 運動系①、3. 運動系②、4. 運動障害、5. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応① 脳原性疾患（脳性まひ）、6. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応② 脳原性疾患（獲得性脳損傷など）、7. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応③ 脊椎・脊髄疾患（二分脊椎、脊髄損傷など）、8. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応④ 筋・神経疾患（筋ジストロフィー）、9. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応⑤ 筋・神経疾患（脊髄性筋萎縮性側索硬化症など）10. 肢体不自由の原因疾患と教育的対応⑥ 骨・関節疾患（ペルテス病、先天性骨形成不全など）、11. 健康観察・健康管理、12. 障害の重い子どもの生命活動の脆弱性、13. 医療的ケアと教育的対応① 呼吸の仕組みとその障害、14. 医療的ケアと教育的対応② 呼吸の仕組みとその障害、15. 肢体不自由児、重複障害児への教育的対応			
成績評価基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。			
成績評価の方法	試験による。			
教科書・参考書	時美利彦(1962)脳の話. 岩波新書 伊藤正男(1986)脳のマカニズム. 岩波ジュニア文庫 横浜「難病児の住宅療育」を考える会 (2003) 医療的ケアハンドブック. 大月書店			

授業科目	知的障害児の教育方法	英訳名	Educational Method for Children with Intellectual Disabilities	
担当教員	新井英靖		単位数	2
開講時期	前期	曜日	金	講時
授業形態と概要	知的障害児の発達と教育との関係について中心的に述べた上で、障害児の教材・教具論、教育評価論、教授・学習論を解説し、知的障害児に対する授業づくりに必要な基礎的知識を習得する。			
到達目標	知的障害児の大まかな発達段階をとらえ、教材を考え、授業を展開するために必要な最低限の知識を身につける。附属養護学校での実習で困らない程度の知識の習得を目指す。			
授業計画	1) 知的障害児の発達と指導方法① 2) 知的障害児の発達と指導方法② 3) 知的障害児の発達と指導方法③ 4) 知的障害児の発達と指導方法④ 5) 知的障害児の障害特性と自立活動① 6) 知的障害児の障害特性と自立活動② 7) 知的障害児の障害特性と自立活動③ 8) 知的障害児の障害特性と自立活動④ 9) 教材・教具の開発原理① 10) 教材・教具の開発原理② 11) 教材・教具の開発原理③ 12) 教材・教具の開発原理④ 13) 指導案作成の方法と授業評価 14) 指導案作成の方法と授業評価 15) まとめ			
成績評価基準	A： 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B： 授業の概要をおおむね理解した C： 授業の概要を理解した D： 授業の概要を理解できていない			
成績評価の方法	試験またはレポートで評価する			
教科書・参考書	教科書：新井英靖ほか編著『自閉症自のコミュニケーション形成と授業づくり・学級づくり』黎明書房（授業初回時に割引価格で販売します）			

授業科目	知的障害児教育実践論	英訳名	Educational Practice for Children with Intellectual Disabilities		
担当教員	新井英靖			単位数	2
開講時期	前期	曜日	金	講時	2
授業形態と概要	知的障害児の教育実践の概要について具体的に説明をした上で、教育実習の配属クラスの子どもの観察を行い、実態把握の方法や子どもへの関わり方を学ぶ。				
到達目標	障害児教育の指導方法に関する基礎的知識を習得することが目標である。その上で、個別の障害について、その原因を知り、具体的な指導方法を考えようとする姿勢を身につけることを目指す。				
授業計画	1) 知的障害児の日常生活の指導① 2) 知的障害児の日常生活の指導② 3) 知的障害児のコミュニケーション指導③ 4) 知的障害児のコミュニケーション指導④ 5) 知的障害児と教師の関わり方① 6) 知的障害児と教師の関わり方② 7) 知的障害児に対する教材開発の方法① 8) 知的障害児に対する教材開発の方法② 9) 知的障害児に対する授業展開の方法① 10) 知的障害児に対する授業展開の方法② 11) 担当児童生徒の実態把握の方法① 12) 担当児童生徒の実態把握の方法② 13) 指導案作成の留意点① 14) 指導案作成の留意点② 15) まとめ				
成績評価基準	A : 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B : 授業の概要をおおむね理解した C : 授業の概要を理解した D : 授業の概要を理解できていない				
成績評価の方法	レポートで評価する				
教科書・参考書	参考書：小川英彦ほか編著『特別支援教育の授業を組み立てよう』黎明書房				

授業科目	知的障害児指導法演習	英訳名	laboratory of educational method for children with disability		
担当教員	新井英靖			単位数	2
開講時期	前期	曜日	集中	講時	
授業形態と概要	知的障害児に対する教材・教具の開発能力を高めるために、附属養護学校の教員により教材開発方法について講義を受けた上で、担当教員から出された課題に即した教材を実際に作成し、発表する。				
到達目標	大学1・2年生で習得した教養、専門基礎をより実践的に活用する資質を見つけるとともに、養護学校実習において必要となる知的障害児教育における教材・教具を開発する基礎的な力を身につけることを目標とする				
授業計画	1. オリエンテーション 2 附属養護学校教員による教材紹介① 3 附属養護学校教員による教材紹介② 4 附属養護学校教員による教材紹介③ 5 教材・教具作成（グループごとの演習①） 6 教材・教具作成（グループごとの演習②） 7 教材・教具作成（グループごとの演習③） 8 教材・教具作成（グループごとの演習④） 9 開発した教材・教具に対する指導・助言①（グループごとに） 10 開発した教材・教具に対する指導・助言②（グループごとに） 11 開発した教材・教具に対する指導・助言③（グループごとに） 12 教材の発表準備 13 教材発表の予行演習 14 教材発表 15 全体的な指導・講評				
成績評価基準	A : 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B : 授業の概要をおおむね理解した C : 授業の概要を理解した D : 授業の概要を理解できていない				
成績評価の方法	出席を重視し、開発した教材を評価の対象とする（8：2）				
教科書・参考書	参考書：渡邊健治ほか編著『特別支援教育における子どもの発達と教育方法』田研出版				

授業科目	障害児発達臨床学	英訳名	Development and Clinical Approach on Children with Disabilities		
担当教員	東條 吉邦		単位数	2	
開講時期	後期	曜日	火	講時	2
授業形態と概要	障害児の知的発達の側面を中心に、社会性・人格・情緒等の発達特徴を臨床学的に理解するとともに指導法の基礎を学ぶ。特に発達の障害について、生物-心理-社会の統合モデル (bio-psycho-social model) から把握するとともに、障害児・者およびの家族への支援の概要を学ぶ。				
到達目標	科学的な心理学の立場から、障害児の発達臨床と指導法の基礎を理解できる。具体的には (1) 知的発達、社会性・人格・情緒等の発達と障害に関する基本的な事柄について説明できる。(2) 胎児期、乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期における発達の特徴を説明できる。(3) アセスメント、支援、指導法の基本的な事柄を説明できる。				
授業計画	(1) 講義ガイダンス、(2) 特別支援教育・発達臨床学・心理学、(3) 障害児の発達の基本的理解、(4) 発達心理学、臨床心理学、生物-心理-社会モデル、(5) 発達、障害および問題行動の基礎的理解、(6) 発達臨床学における対象理解の方法 (7) 障害児の知的発達と指導・支援の基礎、(8) 社会性・人格・情緒等の発達と指導・支援の基礎、(9) 胎児期および乳児期の発達の特徴、(10) 幼児期の発達の特徴と指導法、支援の方法、(11) 児童期の発達の特徴と指導法、支援の方法 (その1)、(12) 児童期の発達の特徴と指導法、支援の方法 (その2)、(13) 発達とアセスメント、(14) 思春期の発達の特徴と指導法、支援の方法、(15) 青年期の発達の特徴と指導法、支援の方法				
成績評価基準	A : 学習した内容を十分に理解し、論評できる水準に達している。 B : 学習した内容を理解している。 C : 学習した内容をある程度は理解している。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価の方法	定期試験は実施しない。レポート (50%) と小テスト (50%) を総合して評価する。				
教科書・参考書	教科書：「ライフサイクルからみた発達臨床心理学」、川端啓之ほか著、ナカニシヤ出版、2200円、参考書：「臨床発達心理学概論-発達支援の理論と実際-」、長崎勤ほか編著、ミネルヴァ書房、2800円。このほか、講義の時に必要に応じて紹介する。				

授業科目	障害児心理診断法	英訳名	Psychological Diagnosis of Children with Disabilities		
担当教員	松村 多美恵		単位数	2	
開講時期	前期 (集中)	曜日		講時	
授業形態と概要	障害児における認知能力のアセスメントに用いられる心理審査の中からWISC-III、田中ビネー知能検査、及びITPAを中心に検査実施の実習をさせる。さらに、検査結果の解釈の方法について講義し、データを基にアセスメントの練習をさせる。				
到達目標	WISC-III、田中ビネー知能検査、およびITPAの具体的な実践方法に習熟し、実際に実施できるとともに、検査結果の解釈ができる。障害児、特に知的障害児や自閉症児、LD児の指導における上記の心理検査の意義を理解できる。				
授業計画	第1回：シラバスを用いたガイダンス実施。障害児における認知能力の診断の意義について講義する。、第2回：WISC-IIIの特徴について講義し、実践方法について説明する。、第3回：WISC-IIIの実習 (1)、第4回：WISC-IIIの実習 (2)、第5回：WISC-III実習 (3)、第6回：田中ビネー知能検査の特徴について講義し、実施方法について説明する。、第7回：田中ビネーの実習 (1)、第8回：田中ビネーの実習 (2)、第9回：田中ビネーの実習 (3)、第10回：ITPAの特徴について講義し、実施方法について説明する。、第11回：ITPAの実習 (1)、第12回：ITPAの実習 (2)、第13回：ITPAの実習 (3)、第14回：各検査の結果の解釈 (1)、第15回：各検査の結果の解釈 (2)				
成績評価基準	A : 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C : 学習した内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価の方法	上記3つの検査について、①実習状況、②検査の記録用紙、および③レポートにより総合して評価する。(1:1:1)				
教科書・参考書	参考書：「WISC-IIIアセスメント事例集-理論と実際-」、藤田和弘ほか、日本文化科学社、3400円「軽度発達障害の心理アセスメント」、上野一彦ほか、日本文化科学社、2600円				

授業科目	病弱児の教育方法	英訳名	Educational Method for Children with cronicly ill		
担当教員	新井英靖			単位数	2
開講時期	前期	曜日	月	講時	3
授業形態 と概要	障害児教育の教育課程および教育方法の概要について述べる。まず、障害児の教育課程の特徴について述べた上で、肢体不自由児・病弱児・軽度発達障害児などに焦点をあてて、障害の特徴と具体的な指導方法について述べる。授業の中では障害児の生活指導に関する内容も適宜盛り込んでいく予定である。				
到達目標	障害児教育の指導方法に関する基礎的知識を習得することが目標である。その上で、個別の障害について、その原因を知り、具体的な指導方法を考えようとする姿勢を身につけることを目指す。				
授業計画	1) 障害児の教育課程の概要① 2) 障害児の教育課程の概要② 3) 障害児の教育課程の概要③ 4) 障害児の教育課程の概要④ 5) 病弱児の自立活動① 6) 病弱児の自立活動② 7) 病弱児の教科指導① 8) 病弱児の教科指導② 9) 病弱養護学校のセンター的機能 1 0) 病弱児に対する教育相談 1 1) 重度・重複障害児への指導① 1 2) 重度・重複障害児の指導② 1 3) 重度・重複障害児の指導③ 1 4) 障害児の教材・教具論 1 5) まとめ				
成績評価 基準	A : 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B : 授業の概要をおおむね理解した C : 授業の概要を理解した D : 授業の概要を理解できていない				
成績評価 の方法	レポートで評価する				
教科書・ 参考書	参考書：湯浅恭正ほか編著『発達障害児のキャリア形成と授業づくり・学級づくり』黎明書房				

授業科目	聴覚言語病理	英訳名	Speech-Language Pathology and Andiology		
担当教員	小淵 千絵			単位数	2
開講時期	後期(集中)	曜日		講時	
授業形態 と概要	コミュニケーションについての基本概念を理解し、その上で生じる様々な言語聴覚に関わる障害(言語発達障害、聴覚障害、失語症、高次脳機能障害、構音障害、摂食嚥下障害)についての発生メカニズムと症状、評価や支援方法について洞察を深める。				
到達目標	1. コミュニケーションの課程と基本概念について理解できる 2. コミュニケーションに関わる障害について説明できる 3. 言語聴覚障害の発生メカニズムや症状について説明できる 4. 各種原語聴覚障害への専門的支援方法について理解できる				
授業計画	(1) 聴覚言語病理学(言語聴覚障害)とは、講義ガイダンス、(2) コミュニケーションの基本概念、(3) 言語の発達1、(4) 言語の発達2、(5) 言語聴覚障害の種類と発生メカニズム、(6) 失語症の原因、症状、評価、支援方法、(7) 高次脳機能障害の原因、症状、評価、支援方法1、(8) 高次脳機能障害の原因、症状、評価、支援方法2、(9) 言語発達障害(発達障害)の原因、症状、評価、支援方法1、(10) 言語発達障害(発達障害)の原因、症状、評価、支援方法2、(11) 聴覚障害の原因、症状、評価、支援方法1、(12) 聴覚障害の原因、症状、評価、支援方法2、(13) 発生言語障害の原因、症状、評価、支援方法、(14) 摂食・嚥下障害の原因、症状、評価、支援方法、(15) 総括				
成績評価 基準	A : 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B : 授業の概要をおおむね理解した C : 授業の概要を理解した D : 授業の概要を理解できていない				
成績評価 の方法	レポートにて評価する(100%)、16回目の定期試験は実施しない。				
教科書・ 参考書	参考書：1) 入門講座 コミュニケーションの障害とその回復 第1巻「子どものコミュニケーション障害」、笹沼澄子 監修 伊藤元信 編、大修館書店(2) 入門講座 コミュニケーションの障害とその回復 第2巻「成人のコミュニケーション障害」、笹沼澄子 監修 伊藤元信 編、大修館書店				

授業科目	感覚障害児の教育	英訳名	Field work in special school for the deaf and blind	
担当教員	東條吉邦、新井英靖		単位数	2
開講時期	前期(集中)	曜日	講時	
授業形態と概要	視覚障害児への特別支援教育について理解するとともに、実施に教育に取り組んでいる特別支援学校を訪問し、そこでの活動に直接触れることで、教育現場での一端を理解する。この他、聴覚障害児への特別支援教育の実際についても学習する。			
到達目標	視覚障害児および聴覚障害児教育の現状について、講義と見学を通してその歴史や制度、教育課程についての基本的事項を理解することができる。			
授業計画	(1) オリエンテーション、(2) 感覚障害児教育総論、(3) 視覚障害児教育の特徴①、(4) 視覚障害児教育の特徴②、(5) 視覚障害児教育の特徴③、(6) 視覚障害児教育の特徴④、(7) 特別支援学校(視覚障害児)見学(①教育課程の概要)、(8) 特別支援学校(視覚障害児)見学(②授業見学)、(9) 特別支援学校(視覚障害児)見学(③自立活動その1)、(10) 特別支援学校(視覚障害児)見学(④自立活動その2)、(11) 感覚障害児教育の特徴①、(12) 感覚障害児教育の特徴②、(13) 特別支援学校(聴覚障害児)見学(①教育課程の概要)、(14) 特別支援学校(聴覚障害児)見学(②授業見学)、(15) 特別支援学校(聴覚障害児)見学(③自立活動)			
成績評価基準	A: 授業の概要を十分理解し、積極的に授業に参加した。 B: 授業の概要をおおむね理解し、授業に参加した。 C: 十分ではないが、授業の概要を理解し、授業に参加した。 D: 授業の概要を理解しておらず、授業にも参加しなかった。			
成績評価の方法	授業最終時のレポート等で評価する。			
教科書・参考書	参考書: 前川久男『特別支援教育における障害の理解』教育出版			

授業科目	重度重複障害児教育論	英訳名	Education for children with profound and multiple disabilities	
担当教員	林 恵津子		単位数	2
開講時期	前期(集中)	曜日	講時	
授業形態と概要	重度重複障害児、なかでも重症心身障害児における原因疾患を整理する。また、知覚・認知・情動発達観察および評価について、臨床・教育現場での取り組みを紹介しながら解説する。評価に基づいた個別指導計画の策定演習も行う。			
到達目標	表出の乏しい重症心身障害児を理解するために、重症心身障害児の発達段階を知的発達・情動発達・運動発達の側面について評価し、教育目標の設定、指導計画の策定、および再評価を設定できるような知識と観察の視点を習得する。			
授業計画	(1) ガイダンス・重度重複障害・重症心身障害児とは、(2) 重症心身障害児の主要病因と出現率、(3) 重症心身障害の分類、(4) 肢体不自由の原因疾患(1)、(5) 肢体不自由の原因疾患(2)、(6) 重症心身障害の原因疾患(1)、(7) 重症心身障害の原因疾患(2)、(8) 脳性まひの定義と分類、(9) 重症心身障害児の知覚・認知・情動の発達、(10) 重症心身障害児の意思伝達能力の発達、(11) 重症心身障害児の医療的支援、(12) 特別支援学校における評価とそれに基づく取り組み、(13) 重症心身障害児における個別指導計画の策定、(14) 保健所相談・療育機関等における経過観察と保護者支援、(15) 卒業後の重症心身障害者、他職種との連携			
成績評価基準	A: 授業の概要をおおむね理解し、教育実践に活かすことができる B: 授業の概要をおおむね理解した C: 授業の概要を理解した D: 授業の概要を理解できていない			
成績評価の方法	レポートにより評価する。			
教科書・参考書	プリントを配布する。教科書は指定しない。参考書 医療的ケア研修テキストー重症児者の教育・福祉、社会生活の援助のために。日本小児神経学会社会活動委員会 松石豊次郎・北住英二・杉本健郎 編 重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版 江草安彦 監修/岡田喜篤・末光茂 ほか編			

授業科目	特別支援教育コーディネーター特論	英訳名	Lecture on Special Educational Needs Coordinator	
担当教員	廣瀬 由美子		単位数	2
開講時期	集中	曜日	講時	
授業形態 と概要	<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義（講義及びグループワーク等の演習） 小・中学校及び特別支援学校等における特別支援教育コーディネーターの役割と具体的な活動について講義する。さらに、講義から理解した内容を適宜盛り込んで、個別の指導計画や人材資源マップの作成を実施する。 			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や演習を通して、特別支援教育コーディネーターの役割と活動内容が理解できる。 ・講義や演習を通して、個別の指導計画が作成できる。 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近年の特別支援教育の動向並びに文科省等の施策情報 2. 特別支援教育コーディネーター（主な役割・活動・資質・技能等） 3. 個別の教育支援計画 4. 自立活動と個別の指導計画 5. 特別支援教育を推進するために1（通常の学級での授業における支援） 6. 特別支援教育を推進するために2（特別支援学級担当教員の支援） 7. 特別支援教育を推進するために3（特別支援学校センターの機能と巡回相談例） 8. 特別支援教育を推進するために4（校内研修①授業に生かす支援について） 9. 特別支援教育を推進するために5（校内研修②事例検討会） 10. 特別支援教育を推進するために6（校内研修③個別の指導計画作成） 11. 特別支援教育を推進するために7（校内研修③個別の指導計画作成） 12. 特別支援教育を推進するために7（校内研修④支援マップ作成） 13. 特別支援教育を推進するために8（他機関との連携） 14. 特別支援教育コーディネーターの課題整理 15. まとめとテスト 			
成績評価 基準	<p>A： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を理解し教育実践に生かすことができる</p> <p>B： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を理解できている</p> <p>C： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を概ね理解できている</p> <p>D： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容が理解できていない</p>			
成績評価 の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①授業参加の状況（出席日数等） ②個別の指導計画や支援マップ等の提出物による評価 ③テストの成績による評価 			
教科書・ 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「通常の学級担任がつくる個別の指導計画」東洋館出版社 ・「通常学級での特別支援教育のスタンダード」東京書籍 ●どちらも参考程度 			

授業科目	言語障害教育特論	英訳名			
担当教員	湯浅 邦彦		単位数	2	
開講時期	前期	曜日	金	講時	3
授業形態 と概要	<p>言語障害児の臨床指導の実際について、教材、諸資料を用いて解説する。また、可能な限り具体的、操作的な授業を展開し、言語障害児の指導についての基礎的、実践的な知識、能力を習得する。</p>				
到達目標	<p>言語障害児の特性や評価の診断、指導の在り方についての基礎的、実践的な知識、技能の習得を目指す。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 言語障害の概略 2) 言語障害児の特性と言語発達 3) 言語障害児の評価、診断と指導の基本 4) 構音障害児の特性と評価、診断 5) 機能的構音障害児の指導① 6) 機能的構音障害児の指導② 7) 器質的構音障害児の指導① 8) 器質的構音障害児の指導② 9) 吃音児の指導① 10) 吃音児の指導② 11) 聴覚障害に伴う言語障害児の指導① 12) 聴覚障害に伴う言語障害児の指導② 13) 言語発達遅滞児の指導① 14) 言語発達遅滞児の指導② 15) まとめ 				
成績評価 基準	<p>A： 授業の概要を十分理解し、教育実践に活かすことができる。</p> <p>B： 授業の概要をおおむね理解した。</p> <p>C： 授業の概要を理解した。</p> <p>D： 授業の概要を理解できていない。</p>				
成績評価 の方法	<p>試験またはレポートで評価する。</p>				
教科書・ 参考書	<p>自作教材、諸資料</p>				

授業科目	発達障害児教育概論	英訳名	Introduction to Education for Children with Developmental disability		
担当教員	東條吉邦		単位数	2	
開講時期	前期	曜日	火	講時	3
授業形態 と概要	発達障害 (LD, ADHD, 自閉症等) 情緒障害等の児童生徒の心理・生理・病理および指導法の基本的事項を学習する。具体的には、自閉症、アスペルガー症候群等の広汎性発達障害、注意欠如多動性障害、学習障害、情緒障害等について、それらの障害の概要、研究の歴史、アセスメント技法および心理的支援方法、指導法の変遷、および当事者視点からの支援について学ぶことを通じて、特別支援教育の動向と課題について理解する。				
到達目標	科学者－実践家モデルを基盤として、障害のアセスメントや支援技法等の概要を理解できる。当事者視点からの支援、発達障害児に関する研究史、アセスメント技法、支援方法、指導法の概要を説できる。				
授業計画	(1) シラバスを用いた授業ガイダンス、(2) 発達障害と情緒障害、(3) 科学者－実践家モデル、生物－心理－社会モデル、Evidence-based Psychotherapy、(4) 発達障害、情緒障害に関する研究の変遷、(5) 自閉症、(6) アスペルガー症候群、(7) 注意欠如多動性障害 (ADHD)、学習障害 (LD)、(8) その他の発達障害、(9) 当事者視点からの支援、(10) 障害のアセスメント (観察法)、(11) 障害のアセスメント (面接法・検査法)、(12) 心理学的支援方法、(13) 心理・教育的指導法、(14) 障害児心理療法と特別支援教育、(15) まとめ				
成績評価 基準	A : 学習した内容を十分に理解し、論評できる水準に達している。 B : 学習した内容を理解している。 C : 学習した内容をある程度は理解している。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	定期試験は実施しない。小テスト (60%) とレポート (40%) を総合して評価する。				
教科書・ 参考書	教科書：「発達障害の子どもたち」杉山登志郎著、講談社現代新書、720円 参考書：「自閉症スペクトラム児・者の理解と支援－医療・教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識－」日本自閉症スペクトラム学会編、教育出版、3200円				

授業科目	障害児生理機能評価法	英訳名	Training in Physiological Assessment of Children with Disabilities		
担当教員	勝二 博亮		単位数	2	
開講時期	後期	曜日	木	講時	5
授業形態 と概要	障害児や生理機能評価に用いられてる、あるいは、今後用いられる可能性のある行動計測や生体計測に関わる講義や供覧を通じて、生理学的評価法を学んでいく。具体的には、脳波、事象関連電位、近赤外線分法、眼球運動、視野計測、聴力測定、心拍などの生体現象を供覧し、障害児における感覚・運動・認知などに関する末梢・中枢の特質とその研究手法について学ぶ。				
到達目標	客観的な生体機能計測としての生理心理学手法について理解できるとともに、生体機能計測が障害児を含むヒトの様々な機能に関わる理解に寄与できることが説明できる。さらに、障害児への支援のためにそのような客観的評価をいかにして利用できるかが考察できる。講義では高度な内容にも触れるが、計測技術の完全な理解よりも、これらを用いることでいかに支援に寄与できるか、考える力をつけさせたい。				
授業計画	(1) オリエンテーション、(2) 行動の生理学的基礎、(3) 視覚生理計測法、(4) 実験供覧①、(5) 聴覚と言語の生理計測法、(6) 実験供覧②、(7) 体制感覚と運動の生理計測法、(8) 実験供覧③、(9) 認知機能の行動計測、(10) 実験供覧④、(11) 自律神経系の生理計測法、(12) 実験供覧⑤、(13) 脳と脳機能計測、(14) 実験供覧⑥、(15) 特別支援教育への応用をめざして				
成績評価 基準	A : 授業の概要を十分理解し、積極的に授業に参加した。 B : 授業の概要をおおむね理解し、授業に参加した。 C : 十分ではないが、授業の概要を理解し、授業に参加した。 D : 授業の概要を理解しておらず、授業にも参加しなかった。				
成績評価 の方法	実験供覧を含むので出席が重要となる。したがって、出席と期末レポートで評価する (1:1)。なお、実験供覧終了後には感想の提出を求めるため、積極的な供覧への参加と目的意識をもった感想について出席評価に含める。				
教科書・ 参考書	参考書：「新生理心理学1巻」藤澤清・柿木昇治・山崎勝男 (編)、北大路書房、3500円				

授業科目	障害児教育総論	英訳名	Elements of Education for Children with Disabilities		
担当教員	荒川 智		単位数	2	
開講時期	前木	曜日	水	講時	1
授業形態 と概要	障害など特別なニーズを持つ子どもの教育のあり方、障害の見方、教育実践の基本的な原理について講義する				
到達目標	障害児教育全般に関わる基本的な事項について習得する。とりわけ、特別支援教育や特悦ニーズ教育、インクルーシブ教育に関する基本的な理念や施策、障害と子ども理解の基本的視点、教育実践の基本的原理について、理解し、簡潔に説明できるようになること。				
授業計画	(1) オリエンテーション、(2) 障害児教育とは何か、(3) 障害児教育の動向1〔特殊教育から特別教育・特別ニーズ教育へ〕、(4) 障害児教育の動向2〔特別な教育的ニーズの概念〕、(5) 障害児教育の動向3〔障害者権利条約〕、(6) 障害児教育の動向4〔インクルーシブ教育とは〕、(7) 子どもと障害の理解1〔障害の概念〕、(8) 子どもと障害の理解2〔各種障害の特徴〕、(9) 子どもと障害の理解3〔問題行動の理解〕、(10) 子どもと障害の理解4〔センタ儿的機能と個別の指導・支援計画〕、(11) 障害児教育の実践1〔生きる力を育む〕、(12) 障害児教育の実践2〔通常学級の学級づくり〕、(13) 障害児教育の実践3〔文化を通じた認識の発達〕、(14) 障害児教育の実践4〔総合学習〕、(15) まとめ				
成績評価 基準	A： 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C： 授業内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レポート				
教科書・ 参考書	参考書：清水貞夫・藤本文朗『キーワードブック障害児教育』クリエイツかもがわ				

特別支援教育特別専攻科(専修免コース)

授業科目	障害学総合研究	英訳名	Introduction to Study on Disability		
担当教員	障害児教育専修全教員			単位数	2
開講時期	後期	曜日	月	講時	5
授業形態 と概要	障害児・者に関わる諸問題を総合的に理解させる観点から、障害の科学的認識とアプローチの手だてについて論及する。				
到達目標	障害児教育に関する基本的な知識を幅広く習得し、研究を進める上での広い視野を養う。				
授業計画	①オリエンテーション ②～⑤障害児教育学に関する諸問題、⑥～⑨障害児心理学に関する諸問題、⑩～⑬障害児生理学に関する諸問題、⑭～⑮まとめ				
成績評価 基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	発表の内容・方法と、授業に参加する主体性などにより、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜指示する。				

□分野「障害児教育」の標準的到達目標

障害児教育学の歴史・制度・原理について理解した上で、教育学的手法にもとづき研究を推進できる基礎を養う。

授業科目	障害児教育学特論Ⅰ(障害児教育学・教育史)	英訳名	Lecture on Education for Children with Disabilities I		
担当教員	教授 荒川 智(障害児教育学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	火	講時	5
授業形態 と概要	障害児教育の歴史及び制度に関する文献又は資料をテキストとして指定し、教員による講義・解説と、学生による研究発表を適宜織り交ぜながら進めていく。				
到達目標	障害児教育の歴史又は制度に関する基本的な知識を習得するとともに、特定の問題・テーマ・領域に関する深い考察力を養う。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)障害児教育の歴史と研究の方法 (3)障害児教育の制度と研究の方法 (4)～(14)学生による研究発表—各自数回の発表を行うとともに、必要に応じて関連する事項の講義・解説を入れる— (15)まとめ				
成績評価 基準	A： 学習内容を十分理解するとともに、障害児教育の歴史や制度全般に関する教育学的考察に活用できる。 B： 学習内容を理解するとともに、障害児教育の歴史や制度の考察にもある程度活用できる。 C： 学習内容をほぼ理解できる。 D： 学習内容が理解できていない。				
成績評価 の方法	発表の内容・方法と、授業に参加する主体性などにより、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜指示する。				

授業科目	障害児教育学演習 I	英訳名	Seminar in Education for Children with Disabilities I		
担当教員	教授 荒川 智 (障害児教育学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	火	講時	3
授業形態 と概要	障害児教育の国際動向に関する文献又は資料をテキストとして指定し、学生による研究発表を中心に進めていく。				
到達目標	障害児教育の国際動向に関する基本的な知識を習得するとともに、特定の問題・テーマ・領域に関する深い考察力を養う。				
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 障害児教育の国際動向と研究の方法 (3)～(14) 学生による研究発表ー各自数回の発表を行うー (15) まとめ				
成績評価 基準	A : 学習内容を十分理解するとともに、障害児教育の動向全般に関する教育学的考察に活用できる。 B : 学習内容を理解するとともに、障害児教育の動向の考察にもある程度活用できる。 C : 学習内容をほぼ理解できる。 D : 学習内容が理解できていない。				
成績評価 の方法	発表の内容・方法と、授業に参加する主体性などにより、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜指示する。				

授業科目	障害児教育学特論Ⅱ (障害児教育方法学)	英訳名	Lecture on Education for Children with Disabilities II		
担当教員	准教授 新井 英靖 (障害児教育学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	月	講時	5
授業形態 と概要	特別支援教育の教育方法学に関する研究動向について、文献講読をしながらディスカッションをする				
到達目標	特別支援学校および特別支援学級に在籍している知的障害児および病弱児の教育実践を理論的に分析することで、教育実践を専門的に研究する基礎を養う。				
授業計画	1)～3) 特別支援教育の教育方法学に関する研究動向 4)～6) 知的障害児の教育方法に関する文献講読 7)～9) 自閉症児の教育実践に関する文献講読 10)～12) 慢性疾患児の教育方法に関する文献講読 13)～15) 病弱児のための特別支援学校に在籍する不登校児・被虐待児等の教育方法に関する文献講読				
成績評価 基準	A : 講義内容を十分に理解し、現代の教育問題と関連させて講評レベルに到達している。 B : 講義内容を理解し、当該テーマについて論評できる。 C : 講義内容をほぼ理解した。 D : 講義内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レポート				
教科書・ 参考書	授業の最初に指示する				

授業科目	障害児教育学演習Ⅱ	英訳名	Seminar in Education for Children with DisabilitiesⅡ		
担当教員	准教授 新井 英靖 (障害児教育学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	月	講時	4
授業形態 と概要	特別支援教育に関する教育方法学に関するトピックスを取り上げ、受講者が考察を加えながら報告し、それに基づきディスカッションを行う				
到達目標	発達障害児（知的障害児を含む）の教育方法について分析し、報告しながら知的障害児教育実践に関する知見を深める。				
授業計画	1)～3) 特別支援教育の教材・教具に関する分析 4)～6) 知的障害児の教育課程に関する分析 7)～9) 自閉症児の障害特性に応じた指導方法に関する分析 10)～12) 通常学級に在籍する発達障害児への支援方法に関する分析 13)～15) 病弱児のための特別支援学校に在籍する不登校児・被虐待児等の教育方法に関する分析				
成績評価 基準	A： 発達障害児の教育方法について十分に理解し、教育現場で教育方法を活用できるレベルに到達している。 B： 発達障害児の教育方法について理解し、それについて論評できる。 C： 発達障害児の教育方法をほぼ理解した。 D： 発達障害児の教育方法を理解できない。				
成績評価 の方法	レポート				
教科書・ 参考書	授業の最初に指示する				

□分野「障害児心理」の標準的到達目標

障害児心理学の専門的知識と技法を習得した上で、心理学的アプローチにより研究を推進できる力を養う。

授業科目	障害児心理学特論Ⅰ（障害児認知心理学）	英訳名	Lecture on Psychology of Children with DisabilitiesⅠ		
担当教員	教授 松村 多美恵 (障害児心理学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	火	講時	3
授業形態 と概要	知的障害児の認知的特徴に関する文献を中心に、教員による講義・解説と、学生による研究発表を適宜織り交ぜながら進めていく。				
到達目標	知的障害児の認知的特徴について最新の知識を習得し、それを説明できるとともに、認知心理学的なアプローチを理解できる。				
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 知的障害児の基本的な認知的特徴① (3) 知的障害児の基本的な認知的特徴② (4)～(14) 学生による研究発表—各自数回の発表を行うとともに、必要に応じて関連する事項の講義・解説を入れる— (15) まとめ				
成績評価 基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	発表の内容・方法と、授業に参加する主体性などにより、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜プリントや資料を配布する。				

授業科目	障害児心理学演習 I	英訳名	Seminar in Psychology of Children with Disabilities I		
担当教員	教授 松村 多美恵 (障害児心理学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	火	講時	5
授業形態 と概要	知的障害児の認知的特徴に関する各種の理論的・実践的な研究論文の講読。				
到達目標	知的障害児の認知的特徴について最新の知識を習得し、知的障害児に対する支援方法の心理学的背景について理解できる。				
授業計画	(1) オリエンテーション、(2)～(14) 知的障害児の認知的特徴に関する内外の研究文献や実践報告の講読、質疑応答、ディスカッション、(15) まとめ				
成績評価 基準	A : 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C : 学習した内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	発表の内容・方法と、授業に参加する主体性などにより、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜プリントや資料を配布する。				

授業科目	障害児心理学特論Ⅱ (障害児臨床心理学)	英訳名	Lecture on Psychology of Children with Disabilities II		
担当教員	教授 東條 吉邦 (障害児心理学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	火	講時	4
授業形態 と概要	特別支援教育の動向を概観するとともに、発達障害児（とくに自閉症児）への支援のあり方について、心理学的側面を中心に論ずる。講義形式を中心とし、文献購読も実施する予定である。				
到達目標	科学者－実践家モデルを基盤として、発達障害（自閉症、知的障害、LD、ADHD等）に関するアセスメント技法、支援技法等の臨床心理学的アプローチへの理解を深める。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)～(6)発達障害（自閉症、アスペルガー症候群、知的障害、LD、ADHD等）に関する最近の研究動向について (7)～(9)障害児臨床心理学と特別支援教育 (10)～(14)障害のアセスメント技法と臨床心理学的支援技法について (15)まとめ				
成績評価 基準	A : 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B : 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C : 学習した内容をほぼ理解した。 D : 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	口頭試問、レポート、授業に参加する主体性等により、総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜、プリントや資料を配布する。なお、教科書が必要な場合は、初回オリエンテーションにて指示する。				

授業科目	障害児心理学演習Ⅱ	英訳名	Seminar in Psychology of Children with DisabilitiesⅡ		
担当教員	教授 東條 吉邦 (障害児心理学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	火	講時	4
授業形態 と概要	発達障害に関する事例研究・調査研究・実験研究の技法および最近の研究成果について、内外の文献講読等を通して学習する。演習形式を中心とする。				
到達目標	発達障害に関する事例研究・調査研究・実験研究等の基本的技法と研究成果を理解でき、障害児心理学に関する専門的知識と技能について説明できる。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)～(14)発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、知的障害、LD、ADHD等)に関する内外の文献の講読、レポート、質疑応答、ディスカッション等による障害児心理学に関する専門的知識と技能の修得 (15)まとめ				
成績評価 基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レジュメ・発表・議論への参加等から総合的に評価する				
教科書・ 参考書	適宜、プリントや資料を配布する。なお、教科書が必要な場合は、初回オリエンテーションにて指示する。				

□分野「障害児生理」の標準的到達目標

障害の生理的背景を理解し、機能的評価や支援方策への展開の基礎を身につける。

授業科目	障害児生理学特論Ⅰ(発達障害学)	英訳名	Lecture on Physiology of Children with DisabilitiesⅠ		
担当教員	准教授 勝二 博亮(障害児生理学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	月	講時	2
授業形態 と概要	講義：知的障害児に関する生理学的知見について総合的に論じる。その際、病弱児に共通する知見についても言及する。				
到達目標	知的障害児(病弱に関わる項目を含む)に関わる最新の知見について学んだ事柄を自らの知識として他人に説明できる。なお、内容によっては学生に発表を求めることもある。				
授業計画	①オリエンテーション ②知的障害児の感覚・認知面での諸問題 ③知的障害児の健康面での諸問題(病弱含む) ④～⑭知的障害児に関わる最新知見紹介 ⑮口頭試問				
成績評価 基準	A： 学習内容を理解し、自らの知識として意見を述べることができる。 B： 学習内容を大体理解でき、説明することができる。 C： 学習内容を半分程度理解でき、十分ではないが説明することができる。 D： 学習内容をほとんど理解できず、説明もできない。				
成績評価 の方法	口頭試問				
教科書・ 参考書	適宜プリントや資料を配布する。				

授業科目	障害児生理学演習 I	英訳名	Seminar in Physiology of Children with Disabilities I		
担当教員	准教授 勝二 博亮 (障害児生理学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	木	講時	3
授業形態 と概要	演習：知的障害児の認知機能について主に発達神経科学的アプローチに関わる内外の文献から生理学的手法に基づく支援方法を学習させる。				
到達目標	知的障害児の認知科学的側面に関わる諸研究について、自ら読み解く力の基礎を修得する。				
授業計画	①オリエンテーション (話題提供・テーマ設定) ②～④担当者による発表・議論 ⑤まとめ				
成績評価 基準	A： 文献の読み取りが十分できる。発表に工夫が見られ、議論にも積極的に参加できる。 B： 文献の読み取りが大体できる。発表にも工夫が見られる。議論にも一定程度参加できる。 C： 文献の読み取りが十分ではない。発表に工夫が見られない。議論に参加できない。 D： 文献の読み取りができない。発表に工夫が見られない。議論に参加できない。				
成績評価 の方法	レジュメ・発表・議論への参加等から総合的に評価する				
教科書・ 参考書	適宜資料を配布する。なお、教科書が必要な場合は、初回オリエンテーションで指示する。				

授業科目	障害児生理学特論Ⅱ (障害児生理学)	英訳名	Lecture on Physiology of Children with DisabilitiesⅡ		
担当教員	教授 尾崎 久記 (障害児生理学)	単位数	2		
開講時期	前期	曜日	木	講時	2
授業形態 と概要	講義：知的障害の感覚・運動・認知の生理学的知見について論じる。その際、肢体不自由に共通する知見についても言及する。				
到達目標	知的障害児 (肢体不自由に関わる項目を含む) に関わる最新の知見について講じることができる。				
授業計画	①オリエンテーション ②～④知的障害児 (肢体不自由を含む) の感覚・運動・認知に関わる諸問題 ⑤～⑭知的障害児に関わる最新の研究成果について論ずる ⑮口頭試問				
成績評価 基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レジュメ・発表・議論への参加等から総合的に評価する				
教科書・ 参考書	適宜プリントや資料を配布する。				

授業科目	障害児生理学演習Ⅱ	英訳名	Seminar in Physiology of Children with DisabilitiesⅡ		
担当教員	教授 尾崎 久記 (障害児生理学)	単位数	2		
開講時期	後期	曜日	木	講時	2
授業形態 と概要	演習：知的障害児における認知機能の神経科学的研究を購読し、特別支援教育での生理学的手法の活用について学習する。				
到達目標	知的障害児の神経科学的諸研究を解説して、その知見を活用する方法をする。				
授業計画	①オリエンテーション (話題提供・テーマ設定) ②～⑭担当者による発表・議論 ⑮まとめ				
成績評価 基準	A： 学習した内容を十分に理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B： 学習した内容を理解し、それについて論評できる。 C： 学習した内容をほぼ理解した。 D： 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	レジュメ・発表・議論への参加等から総合的に評価する				
教科書・ 参考書	適宜資料を配布する。なお、教科書が必要な場合は、初回オリエンテーションにて指示する。				

授業科目	特別支援教育コーディネーター特論	英訳名	Lecture on Special Educational Needs Coordinator		
担当教員	廣瀬 由美子	単位数	2		
開講時期	集中	曜日		講時	
授業形態 と概要	・集中講義 (講義及びグループワーク等の演習) 小・中学校及び特別支援学校等における特別支援教育コーディネーターの役割と具体的な活動について講義する。さらに、講義から理解した内容を適宜盛り込んで、個別の指導計画や人材資源マップの作成を実施する。				
到達目標	・講義や演習を通して、特別支援教育コーディネーターの役割と活動内容が理解できる。 ・講義や演習を通して、個別の指導計画が作成できる。				
授業計画	1. 近年の特別支援教育の動向並びに文科省等の施策情報 2. 特別支援教育コーディネーター (主な役割・活動・資質・技能等) 3. 個別の教育支援計画 4. 自立活動と個別の指導計画 5. 特別支援教育を推進するために1 (通常の学級での授業における支援) 6. 特別支援教育を推進するために2 (特別支援学級担当教員の支援) 7. 特別支援教育を推進するために3 (特別支援学校センター的機能と巡回相談例) 8. 特別支援教育を推進するために4 (校内研修①授業に生かす支援について) 9. 特別支援教育を推進するために5 (校内研修②事例検討会) 10. 特別支援教育を推進するために6 (校内研修③個別の指導計画作成) 11. 特別支援教育を推進するために7 (校内研修③個別の指導計画作成) 12. 特別支援教育を推進するために7 (校内研修④支援マップ作成) 13. 特別支援教育を推進するために8 (他機関との連携) 14. 特別支援教育コーディネーターの課題整理 15. まとめとテスト				
成績評価 基準	A： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を理解し教育実践に生かすことができる B： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を理解できている C： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容を概ね理解できている D： テスト及び個別の指導計画等から、授業の内容が理解できていない				
成績評価 の方法	①授業参加の状況 (出席日数等) ②個別の指導計画や支援マップ等の提出物による評価 ③テストの成績による評価				
教科書・ 参考書	・「通常の学級担任がつくる個別の指導計画」東洋館出版社 ・「通常学級での特別支援教育のスタンダード」東京書籍 ●どちらも参考程度				

授業科目	言語障害教育特論	英訳名	
担当教員	湯浅 邦彦	単位数	2
開講時期	前期	曜日	金
		講時	3
授業形態 と概要	言語障害児の臨床指導の実際について、教材、諸資料を用いて解説する。また、可能な限り具体的、操作的な授業を展開し、言語障害児の指導についての基礎的、実践的な知識、能力を習得する。		
到達目標	言語障害児の特性や評価の診断、指導の在り方についての基礎的、実践的な知識、技能の習得を目指す。		
授業計画	1) 言語障害の概略 2) 言語障害児の特性と言語発達 3) 言語障害児の評価、診断と指導の基本 4) 構音障害児の特性と評価、診断 5) 機能的構音障害児の指導① 6) 機能的構音障害児の指導② 7) 器質的構音障害児の指導① 8) 器質的構音障害児の指導② 9) 吃音児の指導① 10) 吃音児の指導② 11) 聴覚障害に伴う言語障害児の指導① 12) 聴覚障害に伴う言語障害児の指導② 13) 言語発達遅滞児の指導① 14) 言語発達遅滞児の指導② 15) まとめ		
成績評価 基準	A : 授業の概要を十分理解し、教育実践に活かすことができる。 B : 授業の概要をおおむね理解した。 C : 授業の概要を理解した。 D : 授業の概要を理解できていない。		
成績評価 の方法	試験またはレポートで評価する。		
教科書・ 参考書	自作教材、諸資料		

授業科目	障害児教育学特別研究 I	英訳名	Special Study of Education for Children with Disabilities I
担当教員	荒川 智	単位数	2
開講時期	集中	曜日	
		講時	
授業形態 と概要	障害のある子どもに関する教育学的研について、基本文献・資料を読解を通し、かつ障害児教育学に関わ自分の問題関心にに基づき、修了研究作成につなげる。		
到達目標	修了研究のテーマを確定し、基本文献を読解し、研究内容を組み立てて、修了研究を作成する。		
授業計画	1. ガイダンス、2. 関連先行研究の文献の収集と読解（その1）、3. 関連先行研究の文献の収集と読解（その2）、4. 関連先行研究の文献の収集と読解（その3）、4. 関連先行研究の文献の収集と読解（その4）、5. 関連先行研究の文献の収集と読解（その5）、6. 関連先行研究の文献の収集と読解（その6）、7. 研究計画の立案と発表（その1）、8. 研究計画の立案と発表（その2）、9. 研究計画の立案と発表（その3）、8. 研究計画の立案と発表（その4）、9. 論文執筆経過報告（その1）、10. 論文執筆経過報告（その2）、11. 論文執筆経過報告（その3）、12. 論文執筆経過報告（その4）、13. 論文執筆経過報告（その5）、14. 論文執筆経過報告（その6）、15. まとめ		
成績評価 基準	A : 文献読解、計画、執筆内容すべてにおいて優れている。 B : 文献読解、計画、執筆内容において水準に達している。 C : 文献読解、計画、執筆内容においてさらに努力の余地がある。 D : 修了研究の水準に達していない		
成績評価 の方法	授業中のレポートと修了研究論文。		
教科書・ 参考書	適宜指示する。		

授業科目	障害児教育学特別研究Ⅱ	英訳名	Study on Special Needs Education II	
担当教員	新井英靖		単位数	2
開講時期	後期（集中）	曜日	講時	
授業形態 と概要	自分の問題関心にもとづき修了研究を進めるにあたり、その研究方法論や論文の執筆方法に関する指導を行う。			
到達目標	研究の関心を論文としてまとめていく中で、障害児教育学に関する新しい知見を深めることができる。			
授業計画	1. ガイダンス、2. 障害児教育の研究手法の解説 3. 障害児教育における専門的な文献収集の方法、4. 文献購読の方法、5. 文献購読（その1）、6. 文献購読（その2）、7. 文献購読（その3）、8. 文献購読（その4）、9. 文献購読（その5）、10. 文献購読（その6）、11. 自らの研究テーマのまとめ（その1）、12. 自らの研究テーマのまとめ（その2）、13. 修了研究の構想（その1）、14. 修了研究の構想（その2）、15. まとめ			
成績評価 基準	A： 文献読解、計画、執筆内容すべてにおいて優れている。 B： 文献読解、計画、執筆内容において水準に達している。 C： 文献読解、計画、執筆内容においてさらに努力の余地がある。 D： 修了研究の水準に達していない			
成績評価 の方法	授業時のレポートで評価する。			
教科書・ 参考書	適宜指示する。			

授業科目	障害児心理学特別研究Ⅰ	英訳名	Seminar in Psychology on Children with Disabilities	
担当教員	松村多美恵		単位数	2
開講時期	後期（集中）	曜日	講時	
授業形態 と概要	知的障害児に関わる心理学的側面から見た諸問題を認識し、その中から各自の研究テーマを設定させる。そのテーマについての修了研究作成に関わる指導をする。			
到達目標	知的障害児に関わる心理学的側面から見た諸問題を認識し、その中から各自の研究テーマを設定する。そのテーマについて研究の目的、方法を明確にし、修了研究を作成する。			
授業計画	1. オリエンテーション 2. 従来の関係文献の講読による研究目的の明確化（その1） 3. 従来の関係文献の講読による研究目的の明確化（その2） 4. 従来の関係文献の講読による研究目的の明確化（その3） 5. 従来の関係文献の講読による研究目的の明確化（その4） 6. 具体的な研究方法の検討（その1） 7. 具体的な研究方法の検討（その2） 8. 研究計画の立案（その1） 9. 研究計画の立案（その2） 10. 研究の中間報告（その1） 11. 研究の中間報告（その2） 12. 研究の中間報告（その3） 13. 研究の中間報告（その4） 14. 研究の中間報告（その5） 15. 研究の中間報告（その6）			
成績評価 基準	A： 研究目的、研究方法を明確化し、研究を自発的に遂行することができた。 B： 研究目的、研究方法を明確化し、研究を自発的に遂行することがある程度できた。 C： 頻繁の指導の下で、研究目的、研究方法を明確化し、研究を遂行することができた。 D： 研究目的、研究方法を明確化できず、研究を遂行することができなかった。			
成績評価 の方法	毎回のレポートにより評価する。			
教科書・ 参考書				

授業科目	障害児心理学特別研究Ⅱ	英訳名	Special research in Psychology on Children with Disabilities Ⅱ		
担当教員	東條 吉邦		単位数	2	
開講時期	後期(集中)	曜日		講時	
授業形態 と概要	演習形態で実施する。発達障害(特に自閉症と知的障害)に関する諸問題を認識し、その中から各自の研究の目的・方法を明確化し、そのテーマについての修了研究論文の作成に関わる指導を行う。				
到達目標	発達障害に関する研究の技法と最近の専門的知見を理解するとともに、各自の研究の目的・方法等を明確にし、修了研究を遂行する。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)～(14)発達障害(自閉症、アスペルガー症候群、知的障害、LD、ADHD等)に関する内外の文献の講読、レポート等による障害児心理学に関する研究の技法と最近の専門的知見等を修得するとともに、各自の研究の進捗状況等に関する発表およびディスカッション (15)まとめ				
成績評価 基準	A: 研究の目的・方法を明確化し、高水準の研究を遂行することができた。 B: 研究の目的・方法を明確化し、研究を遂行することができた。 C: 十分な内容とは言えないが、研究を遂行することができた。 D: 研究を遂行することができなかった。				
成績評価 の方法	レジュメ、発表、議論への参加等から総合的に評価する。				
教科書・ 参考書	適宜資料を指示する。				

授業科目	障害児生理学特別研究Ⅰ	英訳名	Special Research I in Physiology of Children with Disabilities		
担当教員	尾崎 久記		単位数	2	
開講時期	集中	曜日		講時	
授業形態 と概要	演習: 知的障害児や関連する発達障害に関する生理学的側面から見た諸問題に関して、自らテーマを設定し、そのテーマを明らかにするための指導、助言をおこなう。				
到達目標	障害児に関する生理学的研究論文を作成する。				
授業計画	(1)オリエンテーション (2)～(15)修了論文指導				
成績評価 基準	A: 学習内容を十分理解し、関連諸課題にも活用できるレベルに到達している。 B: 授業内容を理解し、それについて論評できる。 C: 授業内容をほぼ理解した。 D: 学習した内容を理解できない。				
成績評価 の方法	修了論文 100%				
教科書・ 参考書					

授業科目	障害児生理学特別研究Ⅱ	英訳名	Special research in physiology for children with disabilities II		
担当教員	勝二 博亮			単位数	2
開講時期	後期	曜日	集中	講時	
授業形態 と概要	演習：知的障害に関する各自のテーマについて生理学的研究方法を習得させ、具体的な研究計画の立案を指導する。				
到達目標	各自のテーマに基づいて、科学的思考により修了研究論文を作成することができるようになる				
授業計画	(1) オリエンテーション, (2)-(14)各自の修了研究テーマに関わる発表とディスカッション, (15)まとめ				
成績評価 基準	A：自ら立案したテーマについて調べたことを発表し、そのテーマについて内容を深めることができる B：自ら立案したテーマについて調べたことを発表することができる C：自らテーマを立案できないが、与えられたテーマであれば発表することができる D：自らテーマを立案できず、発表することもできない				
成績評価 の方法	レジュメ、発表、議論への参加等から総合的に判断する				
教科書・ 参考書	適宜資料を指示する				